

英語辞書の中の *Haiku*

今里 智 晃

0. Béjoint (1994: 1)¹⁾が「1975年から1985年の10年間は「辞書の10年間」と呼ばれていた」(The decade between 1975 and 1985 has been called 'a decade of the lexicon.')

と述べているが、次の10年間も同じことが言えるだろう。今里 (1995)²⁾では、90年代前半に続々と改訂あるいは発行されたいわゆる「カレッジ版」英語辞書を対象にして、英米の英語辞書に日本語起源の語³⁾が収録される傾向が近年ますます強くなっていることを検証した。しかし、この傾向は「カレッジ版」の辞書だけに限らない。大型辞書においてはさらに顕著になっていて、例えば1993年改訂の *New SOED* では、日本語起源の語の収録数は初版に比べ約3倍に増加した。収録語彙には、日本の伝統文化に関連した語は当然として、現代日本を反映する単語で他の英語辞書に載っていないもの (e.g. *kaizen* (改善), *sogo shosha* (総合商社)) も含まれている。しかし、英語の辞書に日本語起源の語が収録されること自体に問題はないのだが、記述内容に不正確あるいは不十分な箇所がいくつか散見される。その中から本稿では *haiku* (俳句) の項を選び、代表的な英語辞書を対象に語源と語義の記述内容を比較考察する。

1. 「俳句」の由来

「俳句」という語は、元来「俳諧連歌 (俳諧) の発句 (= 第一句)」⁴⁾ の略語であり、連歌の句に対する発句を指すものとして用いられた。この語自体は1663 (寛文3) 年の定清編『尾蠅集』が初出とされるが、江戸時

代を通じて独立した名称としては確立せず、むしろ「発句」と呼ぶことが多かったようである。これに対して、明治30年代に正岡子規が始めた俳句革新の運動から「俳句」という名称が一般に用いられるようになり、今日のような日本独特の5・7・5の17音形式の定型詩が確立した。

2. 調査対象の英語辞書

一般英語辞書⁵⁾には、その判型つまり規模を基準に便宜的に大型、中型、小型に分類される3種類がある。本稿では大型辞書として *OED*, *OEDS*, *OED2*, *New SOED*, *Webster3*, *RHD* を対象とし、「大型と小型の中間の判型」⁶⁾ (佐藤 (1977: 6)) で一般に「カレッジ版」と呼ばれる中型辞書では *COD9*, *Chambers*, *CED3*, *WNWD3*, *MWCD10*, *AHCD3*, *RHWCD* を、小型辞書では *POD8* と *LOD7* を対象とした。なお、大型辞書では *New SOED* だけであるが、中型と小型辞書では *Chambers* を除くすべてが90年代に入ってから改訂あるいは新規に編纂されたものである。

3. *haiku* の語源

一般英語辞書で語源をどの程度扱ったらよいかについては議論の分かれるところであるが、Starnes & Noyes (1946:102)⁷⁾によれば「まともな辞書なら、どの辞書にも必要不可欠な要素」(one of the requisites of any reputable dictionary) なのである。

3.1. 大型辞書の記述

haiku の語源については、大型辞書でもほとんどが以下のような簡潔な記述で済ませている。

[Jap] (*Webster3*)

[Jap.] (*OEDS*, *OED2*)

[<Jap.] (*Random House*)

語源欄の略語や記号こそ辞書によって少しずつ異っているが、*Webster3*, *OEDS*, *OED2*, *Random House* などはいずれも *haiku* が日本語起源の語であることを原語名（しかも略語で）のみという最小限度の記述で示しているにすぎない。⁸⁾しかし、大型辞書は中型辞書より収録語数が多いだけでなく、記載内容においても充実していることが大型である所以であるということからすれば、このような記述では不十分と判断せざるを得ない。ただし、*New SOED* は

[Jap., abbrev. of *haikai no ku* unserious or comic verse.]

というように、「俳句」が「俳諧の句」の縮約形であることを解説し、なおかつ「俳諧の句」＝「滑稽⁹⁾な詩歌」という英訳を与えている。『*下学集元和本*¹⁰⁾』にも「俳諧 ハイカイ 戯 (タワムレ) 義」とあるので、これは「俳句」の語源を示すだけにとどまらず適切な記述になっていると言えよう。一般辞書であっても大型辞書である限りスペースに余裕がある筈なので、最低でもこの程度の解説はあって然るべきである。

3.2. 中型辞書の記述

調査対象の中型辞書の語源記述は、1) 原語名のみという簡単なもの、2) 複合語の場合、それぞれの構成要素に分けてあるもの、3) 漢字自体の語源を中国語まで遡って解説したもの、という3段階に分かれている。

3.2.1. 1) に当たるものは次のとおりである。

[Jp] (1902) (*MWCD10*)

[Jpn] (*WNWD3*)

[From Jap.] (*Chambers*)

[Japanese] (*COD9*)¹¹⁾

これらは原語名のみが表示であるが、興味深いことにすべてが異なっている。つまり、Japanese（日本語）を略記する場合、大型辞書では Jap か Jap. の2種類しかないのに対し、中型辞書にはその他に J. (*AHCD3*), Jp (*MWCD10*), Jpn (*WNWD3*), Japn (*RHWCD*) などがあり、全部で6種類にもなる。これではバラエティに富むどころか、固定した表記がまだ確立していないことを示しているに過ぎない。どんな略語が相応しいかは一概に言えぬにしても、Jap に限っては、今日では「侮蔑的、不快な」(disparaging, offensive) 語とされているので避けるべきである。¹²⁾ 筆者としてはスポーツの世界で定着している Jpn の採用を提案したい。

ちなみに、J. (*AHCD3*) だけ¹³⁾ という略語は、日本人以外の利用者の場合、Javanese (ジャワ語) かと誤解してしまう恐れもあるので問題である。

3.2.2. 2) に当たるものは次のとおりである。

[from Japanese, from *hai* amusement + *ku* verse] (*CED3*)

[1895-1900; <Japn, = *hai(kai)* a kind of informal verse, lit., jesting + *ku* stanza;] (*RHWCD*)

CED, *RHWCD* ともに「俳句」が複合語であることを明確に記述している点で共通するが、前者では「俳句」<「俳」+「句」、後者では「俳句」<「俳(諧)」+「句」となっている。そもそも俳句の成立過程からすれば後者の方が正確なので、スペースさえ許せば中型辞書でもこれぐらいの解説が望ましい。

なお、*MWCD10* と *RHWCD* では語源欄に初出年が明示してあるが、ただ前者では1902年、後者では1895-1900年という具合¹⁴⁾ に違いがある。*OED2* を調べると、初例として次の2つの用例が挙げられてある。

1899 W.G. Aston Hist. Jap. Lit.¹⁵⁾ iv. 289 In the sixteenth century

a kind of poem known as Haikai,

1899 Trans. Asiatic Soc. Japan¹⁶⁾ XXVII. iv. p. xiv, The *hokku* must be an exceedingly compact bit of word

しかし、ここで引用されているのは実は *haiku* ではなく、*Haikai* であり *hokku* なのである。確かに *haiku* の見出しの直後に variant として *haikai* と *hokku* が記載されているので、まったくの無関係というわけではない。ただ、*haiku* の初例もやはり上記の研究誌 (Trans. Asiatic Soc. Japan) で、次のとおりである。

1902 *Ibid.* XXX. ii. 243 The poets of Japan have produced thousands of these microscopic compositions.... Their native name is *Hokku* (also *Haiku* and *Haikai*),....

したがって、*MWCD10* は実際に *haiku* という形で用いられた1902年時点を初出年とし、他方、*RHWCD* は *haiku* の原形とも言うべき *haikai* が用いられた1899年を基準にして1895-1900年と幅を持たせたと考えられる。同辞典に

Most dates are expressed as a spread of years, giving the time within which the earliest document containing the main-entry word was written or published.¹⁷⁾

とあるように、典拠すべき最初の文献資料の時期にある程度の時間幅を持たせる方針を取っている。が、数世紀も前の文献という場合ならいざ知らず、この場合のように比較的新しく、しかも正確に出版の時期が証明できる文献であれば、わざわざ幅を持たせずにはっきり1899年と記述した方がよい。

3.2.3. 3) に当たるものは次のとおりである。

[J.: *hai*, amusement (<Chin. *pá*, farce) + *ku*, sentence (<Chin. *jù*).]
(*AHCD3*)

AHCD3 の語源記述の特徴は、日本語からの借用語で複合語の場合、原則的に漢字の語源¹⁸⁾に遡って丸括弧内に記述していることである (Parentheses enclose the further history of a part of a compound:....¹⁹⁾)。 *WNWD3* は「語源を本辞典の強力な特徴としてきた」(Etymology has been made a strong feature of this dictionary....)²⁰⁾と謳っているように、中型辞書の割に語源記述を重視する編纂方針だが、それでもこの項目では単に Jpn としてあるだけで、*AHCD3* ほど詳しくはない。

3.3. 小型辞書の記述

[Japanese] (*POD8*)

POD8 はこのように原語名のみ記述である。しかし、スペースにもっとも制限のある小型辞書であるにもかかわらず、「各語の語源となる言語を強調し、言語名を省略なしで記す」(..., emphasizing the language of origin of each word and spelling out the names of languages in full.²¹⁾) ことにしているが、これは第7版までの方針を大幅に変更したものと言えよう。ただし、マイナーな言語からの借用語の場合に当該語の原義を説明しているものもある²²⁾ので、今後の改善の余地はある。

3.4. 中型辞書の部類に入る *LDOCE3* と小型辞書の *LOD7* は *haiku* を収録しているが、ともに語義のみで語源の記述はない。

4. *haiku* の語義

俳句が

「日本独特の短詩形式の一種。5・7・5の17音式（定型）で、季節を表す季語（季題）や切れ字をよみこむ。」²³⁾

ものという定義を利用すれば、英語辞書においても最低1) 日本（独特）の（短）詩、2) 5・7・5の17音節の構成、3) 季語、の3つの要素が語義に示されている必要がある。

4.1. 3つの要素を含むもの

an unrhymed Japanese poem of three lines containing 5, 7 and 5 syllables respectively, referring in some way to one of the seasons of the year, and constituting a late 19th century development of the hokku.

(*Webster3*)

a Japanese poem in three lines of 5, 7, 5 syllables, usu. comical, developed in the 17th cent., incorporating a word or phrase that symbolises one of the seasons.

(*Chambers*)

an unrhymed verse form of Japanese origin having three lines containing usu. 5, 7, and 5 syllables respectively; also: a poem in this form usu. having a seasonal reference

(*MWCD10*)

1. Japanese lyric verse form having three unrhymed lines of five, seven, and five syllables, traditionally invoking an aspect of nature or the seasons. 2. A poem written in this form.

(*AHCD3*)

a Japanese poem or verse form, consisting of 17 syllables divided into 3 lines of 5, 7, and 5 syllables, often about nature or a season.

(*RHWCD*)

4.2. 2つの要素を含むもの

A form of Japanese verse, developed in the mid-16th century, usually consisting of 17 syllables and originally of jesting character; an English imitation of one.

(*OEDS, OED2*)

A short Japanese poem in three parts and usu. having 17 syllables; an English imitation of such a poem.

(*New SOED*)

1. a major form of Japanese verse, written in 17 syllables and employing highly evocative allusions and comparisons. 2. a poem written in this form.

(*Random House*)

1 a Japanese three-part poem of usu. 17 syllables. 2 an English imitation of this.

(*COD9*)

an epigrammatic Japanese verse form in 17 syllables.

(*CED3*)

a type of Japanese poem with three lines consisting of five, seven, and five SYLLABLES.

(*LDOCE3*)

1 a Japanese verse form, rendered in English as three unrhymed lines of 5, 7, and 5 syllables respectively (total 17 syllables), often on some subject in nature 2 *pl.*-|ku' a poem in this form

(*WNWD3*)

Japanese three-part poem of usu. 17 syllables. (POD8)

Japanese 3-line poem of usually 17 syllables. (LOD7)

以上のように2つの要素が含まれている場合、1)に相当する‘Japanese verse/poem’と2)に相当する‘17 syllables’については規模にかかわらずすべての辞書に記述してあるが、いずれも3)の季語についての説明を欠いているのが残念である。Béjointの言葉を借りるまでもないが、「英語辞書の利用者は英語の母語話者でない場合が多い」(their observers are often non-native speakers of English.²⁴⁾)ことを考えれば、誤解されぬような配慮が必要である。

ちなみに、*Chambers*に「通例、滑稽な」(usu. comical)、*CED3*には「警句的」(epigrammatic)という記述があるが、これは俳句と川柳を混同したためか。

4.3. 俳句の成立の時期

*haiku*の語義で、*OEDS*と*OED2*が「16世紀半ばに発達し」(developed in the mid-16th century)、「初めは滑稽な性格であった」(originally of jesting character)ということに言及しているが、これはいかにも歴史的原理に基づく編纂方針に相応しい。また、「16世紀半ばに発達し」という記述は、恐らく俳諧の形式を確立した山崎宗鑑(生没年未詳)や荒木田守武(1473-1549)ら室町後期の連歌師の活動を視野に入れたものであろう。

他方、*Chambers*では「17世紀に発達した」(developed in the 17th cent.)とあり、*Webster3*では「発句から19世紀末に発達」(a late 19th century development of the hokku)したと説明がある。「17世紀」は前述したとおり「俳句」の名称が初めて用いられた時期に基づいた記述であり、「19世紀末」は正岡子規の俳句革新の運動に基づいたものと考えられる。しかし、これらの歴史に対する認識がない限り、俳句の成立の時期が誤解される恐れがある。

4.4. 「俳句」から「ハイク」へ

俳句は20世紀に入って B. H. Chamberlain (1850-1935)²⁵⁾らの翻訳を通じ、欧米に知られるようになった。特に、俳句が米詩人 Ezra L. Pound (1885-1972) を中心としたイマジスト派に影響を与えたことはよく知られている。その意味では、西洋の現代詩の1つの流れの源流になったとも言っても過言ではない。したがって、*haiku* の語義に含まれている

an English imitation of one	(<i>OEDS, OED2</i>)
an English imitation of such a poem	(<i>New SOED</i>)
an English imitation of this	(<i>COD9</i>)
a poem in this form usu. having a seasonal reference	(<i>MWCD10</i>)
a poem written in this form	(<i>Random House, AHCD3</i>)
a poem in this form	(<i>WNWD3</i>)

という記述は単に俳句の英訳（作品）を意味するだけではない。当然のことながら、外国人の創作になる「ハイク」をも包含するものである。

Dictionaries Cited

- AHCD3* *The American Heritage College Dictionary*, 3rd edn. (Boston: Houghton Mifflin, 1993).
- CED* *Collins Dictionary of the English Language*, ed. Patrick Hanks (London and Glasgow: Collins, 1979; 3rd edn. 1994).
- Chambers* *Chambers English Dictionary* (Edinburgh: W&R Chambers, 1988; First published as *Chambers's Twentieth Century Dictionary*, 1901).
- COD9* *The Concise Oxford Dictionary of Current English*, 9th edn., ed. Della Thompson (Oxford: Clarendon Press, 1995).

- LDOCE3* *Longman Dictionary of Contemporary English*, 3rd edn. (Harlow: Longman, 1995).
- LOD7* *The Little Oxford Dictionary of Current English*, 7th edn. (Oxford: Clarendon Press, 1994).
- MWCD10* *Merriam Webster's Collegiate Dictionary*, 10th edn., ed. F.C. Mish (Springfield, Mass.: G.&C. Merriam, 1993).
- New SOED* *The New Shorter Oxford English Dictionary*, ed. Lesley Brown (Oxford: Clarendon Press, 1993).
- OED* *The Oxford English Dictionary*, ed. J. Murray *et al.* (Oxford: Clarendon Press, 1933).
- OEDS* *A Supplement to the Oxford English Dictionary*, ed. R. W. Burchfield (Oxford: Clarendon Press, 1972–86).
- OED2* *The Oxford English Dictionary*, 2nd edn., ed. John A. Simpson and Edmund S.C. Weiner (Oxford: OUP, 1989).
- POD8* *The Pocket Oxford Dictionary of Current English*, 8th. edn., ed. Della Thompson (Oxford: Clarendon Press, 1992).
- RHD2* *The Random House Dictionary of the English Language*, 2nd. edn. (New York: Random House, 1987).
- RHWCD* *Random House Webster's College Dictionary*, ed. R.B. Costello (New York: Random House, 1991).
- Webster3* *Webster's Third New International Dictionary of the English Language*, ed. Philip B. Gove (Springfield: Mass.: G.& C. Merriam, 1961).
- WNWD3* *Webster's New World Dictionary of American English*, 3rd college edn. (New York: Prentice Hall, 1994).

Notes and References

- 1) Béjoint, Henri (1994), *Tradition and Innovation in Modern English Dictionaries* (Oxford: Clarendon Press).
- 2) 今里智晃 (1995), 「カレッジ版英語辞書に収録された日本語——語彙の選択と語源の記述について——」 *ASTERISK*. Vol. 4, No. 2: 80-91.
- 3) 本稿では「日本語から英語に借用された語」と定義する。
- 4) 『日本語大辞典』第2版 (1995), 東京: 講談社。
- 5) 一般英語辞書という場合, 発音辞書, 語源辞書, 類義語辞書など分野別の特殊辞書は含まれない。
- 6) 佐藤 弘 (1977), 『英語辞書の知識』東京: 八潮出版社。
- 7) Starnes, de Witt T. and Noyes, G.E. (1946), *The English Dictionary from Cawdrey to Johnson 1604-1755*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press; New edn. 1991 with introduction and new bibliography by G.Stein. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- 8) *OED* 初版並びに初版の *Supplement* には収録されていない。
- 9) 『日本語大辞典』の「俳諧・誹諧」の語義1) が「たわむれ。おどけ。滑稽。諧謔。」である。
- 10) 『下学集』(1444) は東麓破納編の古辞書。亀井孝校『下学集元和本』(1944), 東京: 岩波書店。
- 11) *COD8* では Jap. を使用していた。*COD9* で略語ではなく Japanese と表記したのは, 編纂主幹が *POD8* (原語名については略語を使用しない方針) 担当の Della Thompson 氏ということで納得がいく。
- 12) *COD9* には ‘One should certainly avoid abbreviated colloquial forms referring to race (e.g. *Paki, Jap*);’ (人種に関する口語の略語 (例, パキ, ジャップ) は当然避けるべきである) という注意がある。
See Appendix, xiii. Style Guide, F. Offensive Language and Sexism.
- 13) 言語名の略語一覧表を見れば, もちろん J. が Japanese であることは分かる。See *AHCD3*, Abbreviations and Labels Used in This

Dictionary, xxix.

- 14) *RHWCD* では、ほとんどの見出し語で初出年に 5～10年の幅を持たせている。
- 15) =Aston, William George *A history of Japanese literature* 1899. なお, W.G. Aston (1841-1911) は明治時代の代表的日本学者。
- 16) =*Transactions of Asiatic Society of Japan* 1874-. 同誌は日本アジア協会の研究紀要。
- 17) *RHWCD*, Using This Dictionary, xxviii.
- 18) 借用語が大和言葉, つまり日本語の本来語の場合は漢字の語源への言及はもちろんない。Cf. makimono (巻き物) [J., scroll : *maki*, rolled+*mono*, thing.]
- 19) *AHCD3*, Guide to the Dictionary, xxvii.
- 20) *WNWD3*, Guide to the Dictionary, V.; 渡辺勝馬 (1981: 208-12) [*New World Dictionary*, Second Edition の分析] 岩崎研究会編『英語辞書の比較と分析』第1集。東京: 研究社。
- 21) *POD8*, Preface to the Eighth Edition.
- 22) e.g. polo [Balti, =ball]
- 23) 『日本語大辞典』の「俳句」の項。
- 24) Béjoint (1994: 2)
- 25) 明治時代の代表的日本学者。外国人として初の東京帝国大学名誉教授。日本の古典や事物を西洋に紹介したほか, 日本語学などに実証性を取り入れるなど学界に大きな貢献をした。

On *Haiku* in English Dictionaries

Chiaki IMAZATO

Henri Béjoint states that the decade between 1975 and 1985 has been called 'a decade of the lexicon', which is even more true of the following decade between 1986 and 1995: never before have so many dictionaries been revised or newly compiled.

It should be noted that, not only in 'college-sized' dictionaries but in large-sized, unabridged dictionaries, there is a steady increase in the number of entry-words with Japanese origin or connection. For example, there are 335 Japanese words in *The New Shorter Oxford English Dictionary*, which was newly revised in 1993. This is about three times as many as that in the first edition. But so far little attention has been given to the English borrowings from Japanese.

The purpose of this paper is, therefore, to examine and consider the etymology of *haiku* (俳句) 'a Japanese poem in three lines of 5, 7 and 5 syllables' and its definitions in English dictionaries. It has been established that etymologies appear in entry blocks inside open brackets to make them clearly distinguishable, and symbols and abbreviations are commonly used: e.g. '<' indicating 'derived from'. But, in fact, different abbreviations for Japanese are used in most dictionaries: J. (*AHCD3*), Jp (*MWCD10*), Jap (*Webster3*), Jap. (*OED*, *OED2*, *New SOED*), Jpn (*WNWD3*), while *CED*, *COD9* and *POD8* spell it out in full.

Of course, the Japanese *haiku* is an abbreviation of *haikai no ku* (俳諧の句) 'unserious or comic verse' (*New SOED*), which can be reasonably dated from the middle of the 16th century. But as for modern *haiku*, although 'Japanese', '17 syllables (5, 7 and 5)' and 'a seasonal reference' are indispensable factors in its definition, not all of the dictionaries cited for the present study refer to these three.